

使徒パウロ／神の選びと召し

今日から私たちは使徒パウロの「コリントの信徒への手紙一」の学びを始める。この手紙の冒頭の挨拶の部分に彼は「神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロ」と書き出している。この短い言葉に彼の回心と献身に現われた「神の選びと召し」の恵みが語られている。

まず彼は自分を「使徒」(アポーストロス)と呼ぶ。アポーストロスとはもともと、王や議会によって、ある使命を与えられ、権限を付与されて送り出される使者、使節を意味した。この言葉を主イエスはご自分の弟子たちに適用された。「このころ、イエスは祈るために山へ行き、神に祈って夜を明かされた。朝になると、弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで、使徒(アポーストロス)と名付けられた」(ルカ6:12、13)。

イエス・キリストの代理者として神の国の福音を伝える特別な使命権限を与えられた12名、この特別な人たちが「使徒」である。後になってその内の一人ユダヤがイエスを裏切り12使徒から脱落。その代わりにマテヤが使徒に任命される(使徒1:21～22)。更に、この「12使徒」とは別に、異邦人伝道という特殊な使命のために選ばれたのが使徒パウロである。

パウロはまたの名を「サウル」といい、小アジアの学問都市キリキヤのタルソスに生まれた。ユダヤ教の中でも最も厳格をきわめたファリサイ派の家庭で育てられ、若くしてエルサレムに留学し、当時ファリサイ派の最大のラビ(ユダヤ教教師)といわれたガマリエルのひざ元で徹底的なファリサイ派教育を受けた。十字架に架けられたあのナザレのイエスがよみがえられた、彼こそ神が預言者たちを通して約束されたメシア(救い主)である、と主張して大胆に宣べ伝えるイエスの弟子たちに、彼は激しい怒りを覚え、この新興宗教を撲滅することが、自分に与えられた使命であると信じて、徹底的な教会撲滅運動を始めたのである。

シリアのダマスコに隠れ信者がいることを知った彼は、ユダヤ教当局者からダマスコの指導者あての添書を携えて、キリスト信徒捕縛のためダマスコに向かった。ところが、その途上、彼は驚くべき体験をする。彼は突然天よりの光によって地に投げ倒され、一瞬のうちに目が見えなくなってしまう。その時サウル、サウル、なぜわたしを迫害するかという復活の主イエスの声を聞く。このダマスコ途上における「復活の主」との劇的な出会いが彼の生涯を百八十度を変えた。熱狂的なファリサイ人サウルは熱烈な福音の使徒パウロに、冷酷な迫害者サウルは燃えるような福音の擁護者パウロに変わった。それ以来、彼はすべてを捨てて死に至るまで主イエス・キリストの福音に仕える偉大な僕となった。

第1コリント15:1～11において彼は過去を回想し、「自分の回心とその回心に現われた神の恵み」を感動をもって語る。ただ神の恵みによって、自分は神に選ばれ、使徒として召されて今あるを得ている！「今あるはただ神の恵み」。この神の選びと召しへの驚き！この驚きこそは使徒パウロの信仰と生涯の中心、彼の教えと神学の中心であった。彼は全生涯をこの神の恵みに生きた。そして、この神の恵みを一人でも多くの人に伝えるために、全生涯をこの神の恵みの宣教にかけた。私たちがまた神の恵みによって生かされていることをしっかりと覚えたいと思う。